

感情労働としてのメイド喫茶

19191059

樋口 未佳

メイド喫茶に関して、「萌え」や「アキバブーム」などの文化的な研究は多いのだが、そこで働くメイドに関する労働としての研究は少ない。本論文では、昨今問題化している感情労働という面からメイド喫茶という仕事を考える。働くメイドたちについて、感情労働によるどのような苦勞があるのか、なぜ感情労働が行われるのか、また、感情労働によるストレスと、職務満足との関連についても探求し、これらを明らかにすることで、よりメイド喫茶の労働に関する知見を広めていくことを目的とする。

まず、メイド喫茶の基本データを整理し、労働者としての立ち位置を整理した。続いて、文献を元にメイド喫茶における感情労働についての実態を調査し、また、実際にメイド喫茶で働いた経験のある女性3名にインタビュー調査を行った。

調査の結果、メイド喫茶では、推されることが仕事に結びつく限りは、時間外労働、アイデンティティの維持管理など、どんなことであってもやらなければ・守らなければならないメイド喫茶独自のルールが成立してしまっていることが明らかになった。しかし、これらは仕事上で得られるやりがいや、客にとってポジティブな意味も含まれているが故に問題として認識されにくく、メイドという仕事自体の周囲からの理解も不十分である。メイド喫茶という労働現場についてもっと研究を進め、閉鎖的な空間から脱却する必要がある。